



0号

一九七〇年二月六日発行

経済学基礎理論研究所機関誌

主な内容

- 発行のことは - (一)号 - ----- (1)
- ある語学研みらの報告 針田正一、保井一松、松本隆雄 ----- (3)
- 森風孝二氏『経済学研究のあり方と民主主義的共風研究体制』
にそとつく討論 梅埜 ----- (4)
- 講師古野雅彦 ----- (6)
- 大阪外大 —— 経済学会のたより ----- (7)

発行のことは

基礎理論研究所が発足して早や一年、労働者・学生・大学の研究者が広く手をとりあって、苦しい状態の中、協力して共同の研究を進めていこう。労働者階級農民を中心とする人民の根本的利益を擁護する研究を共同で行おうと確認しあって歩んで来ました。この一年間、労働者人民、私たちの行く手をはばどうとする敵は、はげしい攻撃をかけた、時には研究所の活動を停滞し、厳しい試練の連続でした。しかし労働者人民大衆の利益を守ろう、人民大衆の中に入り共にがんばって、いこうとする私たちの高い意気込みと、何よりも差別された状態にありながらも

団結して頑張っていこうとする苦悶研究者である私たちの熱意と努力が研究所を支えてきました。又、大学の研究者をはじめ多くの人々の私心のない協力援助が大きな支えでありました。このようにして一年を経に今、一九七〇年一月、情熱に満ちた多くの若い研究者が生まれ、研究所の体制を建て直し、さらに団結をかため、広く手をのびし多くの人々の中へ入って行こう、具体的な事業にとりかかろう、と確認し合えるようになりました。労働者人民の斗いに合流し、もっともっと研究所の目標に向かって努力しよう、そして、その一歩として、機関紙を作る

うということになったのです。機関誌を定期的に発行することは並大抵のことではないでしょう。だが機関誌は会員相互の団結の要であり、広く人々の結びつきをつくる上で、又、私たちの研究の向上の大きな力となり、研究所活動全般の礎石となるでしょう。困難ということとは実現不可能ということではない。正しい道を歩んでいくという確信は奇蹟と思えるような勇気を生み出し、奇蹟と思えるような事業をなしとけるであろう。(レーニン)私達の機関誌は、多くの人々の日々の意気込みと熱意、研究所一年の活動の上に生まれ出したものです。困難はきつとつきまとうことではありますが、何として

も継続して、定期的につけていきましょ。今回は0身として、これを土台全会員の討議、意志の結集の上に、機関紙の内容・形式を決めて行きましょ。機関紙の名前も是非すばらしい名をつけましょ。積極的に御意見を寄せて下さ。 (今、「人民の中へ」、「無産研究者」等々出されていましょ)一九七〇年：年頭に、多くの人々の努力の中で基礎理論研究所機関誌が生れたことを心から喜びたいと思います。今後、一層奮闘して行きましょ。

(編集部)

土居 英二

研究テーマ

日本資本主義、「帝国主義自立」の向
題も含めて従属問題を野呂栄太郎の
方法に学びながら弁証法的に。資本
蓄積と利潤率等の資本論の命題を中

心に。身体が弱く病気を療養しながら
神戸の家の主伝いという二重のハン
ディの中で京都の基礎研に目下結果
できないのが残念であります。

森岡 孝二

- ①フィスカル、ポリシーの理論的語
題。アメリカの連邦政府政策との関
連。
- ②「国民経済合理化」と「経済計画」
のイデオロギー批判
- ③「合理化」の基礎理論

昨年11月末から四人ではじめました。12月中旬から集まりが悪くなり、12月10日に流会したのを最後に1月13日迄休んでしまいました。構成メンバーの生活条件が大評ちがうつで集まるのは骨が折れ、一度崩れだすと体制を立て直すのが困難でした。この期間、余り予習をして来ず、とにかく集って我尊敬するA氏の刀死に援助をえて(即ち彼をWikipediaの代わりに利用して)何とか記さつけてゆく状態でした。唯一の成果はお互の語学力のなさがわかり気がねをする必要がなく、のびのびと記せたことです。K氏のグループに比べ余りの弱体ぶりで行き先を安んじられていた我グループも一月に入り夕方に危機感におお...

庶民の
実力の
養成
めざして

メンバーから体質改善の要求が湧き上り、いっしょに夕飯談(四名中四名)を形成、旧体制の維持をはかる原動力(同じく四名中四名)と激烈な斗争を遂げた。確実な勝利をきびいています。20, 27と連続三回行い定期化に成功、26, 27には参加者全員が予習しているという恐ろべき事態を生じさせました。予習してきて相手の説ききいていると、その欠点がよくわかり、あたかも自分の語学力がついたような気持ちになったり。評書三冊々々ひっぱりまわって謙歩橋文であると発見したときのおもしろさなど、真理探求のようこびを味っています。誰でも参加しうる庶民的な実力と近い将来の太くなる発展の可能性をわかせた我グループは目下メンバー三才専集中。現在、原不論を一巻一章三節で

池上 淳

- テーマ 国家独占資本主義の理論的課題
- (1)アメリカ国防親連制歴史(1914→現在)
- (2)戦後日本の国家独占資本主義
- (3)労働力統制、消費統制論——教育向課題と関連して

- (4)国家独占資本主義と独占価格
- (5)国際政策論序記

岡本 博公

方法論を基礎にやらねばならぬと考えて少し学芸、全体との関連が不十分。

ある研究会からの報告 — 基礎理論研究会 —

基礎理論研究所研究会活動の一つとして、毎週金曜日、午前中は資本論等の学習、午後は個人自由研究、書評発表討論が行なわれておりますが、この研究発表の一つとして、昨年12月14日、森岡孝一氏「経済学研究のあり方と民主主義的共同研究体制」(京都大学経済学会、経済論叢文104巻オ2号)の氏を以て話し合いが持たれました。この論文は「マルクス主義経済学は『労働者の経済学』である」という規定でもって持たれ、今日、私達マルクス主義経済学を学ぶ研究する者が、民主主義的共同研究体制をきあげ、労働者人民と連帯し、科学的創造的研究活動を力を尽くしてやりとげてゆくことの重要性が、包括的に述べられている格調の高い好論文ですが、ここでこの論文報告に基づいて話し合い確認された点を紹介致します。

話し合いは、まず、「朝鮮戦争当時、私らは農村調査と称して手弁当で田舎に行き、稲刈りを手伝いながら話しあつたもんや、そういえばこのごろはさっぱりやりまへんや——」といった音話から始

めうし、経済学研究における調査活動の持つ意義についてから始まりました。

調査活動はそれによってまず法則が再発見され、現実の中で検証されるものです。さらに理論が現実と一致しない場合には理論の部分的変更あるいは枠組全体の新しい種か案えを要請してくるものであります。働いている労働者の意識、抱えている資本家の意識、現実の階級闘争から出発し、その上に立って、過去の理論的遺産をふまえて、理論を具体化し、官庁、ブルジョア統計を批判的に対峙して理論を打ち立てるといふことにはブルジョア政治家の言葉をもって自らの理論の論証としたり、官庁統計の数字の枠内で事態を云々している「学者」氏とは明確に異った立場をとるものであり、労働者階級と人民の実践そのものの中で真理の基準を見い出すという科学的理論構築における不可欠の原則的立場です。

次に、現在大学において熾烈に闘われている、「近代化」か、「民主化」か、に連して、教育と研究との統一をいかに

体制的に築きあげてゆくのが、民主主義的
大同研究体制をいかに打ちかため強めて
ゆくのかということが話し合われましたが、
労働者、人民の中に自己の同盟軍を創り、
大同学習の網の目を広げ、労働者、人民の
民主主義的要求に基づく闘いを支援し、
一体となって闘うことなしには、
学問、研究の自由を育てあげてゆくことは
出来ないということが確認されました。
学問、研究の自由は、他の階層と連帯して
ゆく自由を築きあげることによってのみ
保障されるのであり、連帯の自由は、
まさに私達が強固に連帯を求めてゆく
中においてのみ達成されるのです。

最後に、学生の意識状況について、
基盤は互いにそっくりのくせに、大同
意識が崩れてゆく傾向があり、その結果
結合の基盤が感性の段階にとどまり、
マージン、しよっさ等、仲間意識が比較
的出来やすい所において結びつくとい
った所がある。恋愛論においても現代は
意識の断層を如何にしたら回復するか、
というようなところの出発点となっている。
これは文化の民衆的基盤が破壊されて
いる現状のあらわれである。そこの

文化水準を回復してゆくこと、理論を基
盤にして共通の立場を築くことが、今日
大切であるといったことが話し合わ
れました。

(当日の簡単なメモに基づいて書きましたので、若干、散干し報告になったことをお詫言致します。この機関紙に、私たちの研究会と同様に、首脳がやっておられる研究会の報告が寄せられ、互いに交流を深めることを希望します。マルクス主義経済学における理論と実践の前進を私たちの結びつきによって開始しましょう)

基礎理論研究所の基礎理論研究会は、四年程前から、京大の研究者を中心に作られ、それ以後、京大以外の多くの大学(大阪外大、大阪市大、京都同志社大、立命館大等)の人たちも加わり、つづけられてきました。現在、資本論の巻の研究と、会員各人の研究発表、書評発表討論を行っています。労働者の人も参加しておられています。ごまごまの分野で御活躍しておられる方々の御参加を期待します)

二 ◆ 二 講師活動概感 ◆ 二

— 成瀬 龍夫 —

講師活動で痛感することは身近な問題と結びつけて話すことの重要性である。これは必ず注文されることでもあるが、自分自身がよく考え、又、周到な準備をしていかないと失敗してしまう。昨年は安保や沖縄問題、それに大学問題などが多かった。僕は病院労組、看護婦サークル、学生の社研や講演会、婦人会、学習協などへ10回余り参加したが貴重な時間を学習会にさいて参加して来ている人達にとの程度、応えることができたかと思うと全く不十分であった。

身近な問題に結びつけて安保や大学を語るとき暴論的な話に終始することが多いが、それでは毎日の生活と斗いのために役立つ十分な確信を持つことにならない。結局、身近な問題の中に私達の要求から出発して反動的政策と対決する団結の条件、守り発展させねばならぬ生活権、労働権、民主主義などを明らかにしてゆくことが大切となる。学習会に来ている人々の知識

欲や関心事、求めていることは無限と、いってよいほど多面的で深い。だから講師の立場になると、いつまでもどこへいつても「安保と物価」の話ならコカコーラという発展性のないことでは参加者に確信とさるか失望をもたらしかねない。情勢は激流のようである。反共と欺瞞的なイデオロギーに抗して学習することは、即ち私達の不断の物の見方、考え方の変革と発展を必要とする。講師の物の見方、考え方：確信ある態度、具体的な問題の解明と斗いの方向についての発言、これらがその場の雰囲気大きく左右する。僕は講師活動に参加してつくづく、日常の自分の学習態度を反省させられた。自分なりの観望と結論を具体的に準備するための努力の下足である。話せないのは自分が解っていないからだ、と言ったのは他ならぬレーニンであるが今後ともこの点を反省の指針としていきたい。

経済学習会のたより

民主化の活動を通じて知りあったメンバーで余りの学習不足にひとつ長期につづける学習活動をやろうということになり始った。昨年の非常に忙しい時期をくぐりぬけて1週1回の目標で1年成功させてきた。内容は文脚につけては、月刊「経済」をとりあげ、これまで講座については、5~7月の三号、特集については、富士、八幡合併、都市問題、国策論(一、二)その他インフレーション論をやった。

毎週、月曜日、夜10~12時の2時間で交代で報告、質問、討論を行なっている。

いる。恒常メンバーは4名で1月から再進化に努めることになっている。経済学は初めてというのが多く講座も難しいので大変だったが山本、毛利が指導性を発揮して何とかもちこたえてきたという感じである。講座が終った段階で今後の発展方向をきめるが資本論をやるつもりである。

あるメンバーは、この中で学習会の大切さを体得して独自に哲学の学習会を10月から組織している。

労働者の中に経済学学習をひろげること非常に意欲をもっています。

鍛冶邦雄

① 1910年から20Cの二次大戦までのドイツ経済史。目下は政治的変遷についての概説書を読みながし問題集と文献の整理をやっています。

② 研究条件に恵まれない人達が国策として共同研究体制をつくり上げることでより研究者となっていけるよう皆で努力したい。

③ 特に受験生の仲間の団結を!

重森 暁

修論 「昭和初期の国鉄合理化」

卒論 「在華紡の研究」

「合理化」にかんする基礎的学習

青木圭介

インフレーション

教育投資論、人的能力開発論

本多三郎

19C後半～20C イギリス農業構造

◦マルクス、エンゲルスのイギリス観の整理。

◦宇野浩二論批判，類型論批判をこめて産業革命以後，独占形成期，独占段階でのイギリス農業の構造，発展方向を明らかにすること

中村稔秀

◦理論の基軸——「帝国主義論」研究とヴァルカの批判的再検討

◦実証的検討——戦後の西独口独資の展開過程，E.E.C.——口家と経済。

松永健二

研究テーマは未決定。当面は資本論を中心として基礎理論を厳格に理解することを目標にしていますが、それも仲々進行状況は、ほかばかしくありません。

片桐正俊

◦ドイツ語研「Das Kapital」

◦英語研 A. Smith の口論五章。

◦学習機関としての基礎研の活動はか
なり定着して来たが研究機関として

の活動には、まだ、みるべき成果を上げていない。

◦受験生グループの最大の難関は語学力である。語学力のある院生の助力を請う。

◦思弁的自内的基礎研から外に向って働きかける行動する基礎研にしようではないか。

山本恒人

従来の学習を少し広げて、民主主義とファシズムの諸問題をできるだけ包括的、理論的に研究すること。

編集後記 (編集部)

多くの人々の御協力の下にようやくこの号の発刊にこぎつけました。不^ろ十分な編集技術にもかかわらず、さまざま^ろ取場、地域、学園で奮闘中の皆さんの力のこもった、お便り、原稿で中味は充実していると確信しています。それぞれ困難な生活、研究条件のもとで相互に助け合い支えあいつつ前進する我輩基礎研の前途は洋々たるものです。この^ろ団結力で機関紙もいっそう充実したものにへと発展させましょう。